

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152  
メール info@takaoka-hongwanji.jp

### ◇高岡教区教務所長の就退任について

去る十二月一日付人事発令により、西岡孝了教務所長が退任され、森尾 淳章（もりお じゅんしょう）教務所長が就任されました。



森尾淳章教務所長

### ☆「遠く宿縁を慶べ」の思いに…

西岡孝了

このたび 十二月一日付け 高岡教区教務所長、親鸞聖人八  
百五十年立教開宗八百年慶讃法要高岡教区法要事務所長並び  
に本願寺福光教堂主管を退職し、大阪の自坊に帰らせていただ  
きました。

定年退職をはさみ五年八ヶ月の間、教区の皆さまには 折に  
ふれ 温かいお言葉をかけていただき、変らぬご指導ご鞭撻を  
いただきましたこと 深く感謝申しあげます。

今は、この富山県の呉西地区ならではの歴史と風土に培われ  
た「浄土真宗」にお育てをいただいたことを、そしてお念仏を

申せる身になることの意味を、改めて学び直させていただいたように感じております。また、高岡教区が、教務所長として最初で最後の赴任地になりましたことも、宗祖の「遠く宿縁を慶べ」とのお示しを味わう中にあります。

お一人お一人にお目にかかりご挨拶と御礼を申しあげねばなりません、教区報への掲載をお許しいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

これから益々冷え込みが厳しさを増してまいります。どうぞ、皆さまには、ご自愛いただきますよう念じ上げます。

合掌

### ▽会館報恩講「親鸞聖人を語る夕べ」開催

去る十一月二十五日（月）西本願寺高岡会館において「親鸞聖人を語る夕べ」が開催された。

はじめに各教化団体代表者による献灯献花があり、コーラス「瑠璃の響き」の「いちいちのはな」の合唱が響き渡る荘厳な雰囲気の中で献灯献花が行われた。続いて教務所長導師のもと、来場した参加者とともに宗祖讃仰作法による音楽法要がお勤めされた。

今回の講演は講師の吉井教潤さん（新湊組主幹 西照寺住職）「親鸞聖人はどのような社会を願われたのかー私が救われるということー」をテーマに当時の社会背景や仏教界の常識を踏まえ、親鸞聖人の教えと活動は当時の社会においてどのような意味を持っていたのかについて講演された（詳細は御同朋の社会をめざすコーナーにて）。講演終了後はコーラス「瑠璃の響き」による浄土讃と恩徳讃のお勤めがあり閉会した。

## ◆子ども若者ご縁づくり推進にかかる高岡教区協議会を開催

十一月二十九日、西本願寺高岡会館において、午後四時より子ども若者ご縁づくり推進にかかる高岡教区協議会が開催され、仏婦・仏壮等の各教化団体役職者や少年連盟・寺族青年会の会員が参加した。これは二〇一八年度より発足した高岡教区子ども若者ご縁づくり推進委員会が、宗派からの依頼を受け、行ったもので宗派のご縁づくり推進室より、推進事業や各教区の現状についての報告があった。

宗派からは、公文名正真「ご縁づくり推進室室長（副総務）、三島慶照「ご縁づくり」活動推進会議委員長と熊谷正明推進室部長が出席された。最初に三島委員長からご縁づくりの概要を話され、家庭や手次の寺院でお念仏の伝承機能が失われた今、新たな取り組みをしていくことで次世代育成をし、お念仏を申す人になつてほしいと言われた。

次に宗派の推進体制について話され、ご縁づくりの“現場”を増やし、多様化している若者の現状を学び、寄り添っていきたいとした。そして各教区の現状や高岡教区での推進に触れ、いくつかの具体例を出しながら、教区主体の事業企画を行うことで、各寺院の支援活動になるなど教区内寺院がご縁づくりに取り組んでもらえる環境を整えることが大事と述べられた。

終了後、意見交換が行われ、これまで高岡教区が行ってきた少年教化の取り組みや、寺族青年会が中心として行った「ふるこはんフェス」や仏青「教区をつどい」等について報告が行われたり、「ご縁づくり」を推進していくための質問や意見が交わされた。

また、アンケートには「これまでの流れが少し理解できた」「各寺院から



一人は参加して共に協力する姿勢が大切」等、前向きな意見が聞かれた。この協議会を受けて、高岡教区子ども若者ご縁づくり推進委員会では教区の推進のために何をして行けばいいのかを検討し、さらなるご縁づくりの推進を行っていききたいとしている。

## ▽第三回寺院女性会連盟研修会

—ご講師 今井雅晴先生（筑波大学名誉教授・東国真宗研究所所長）—

十二月四日（水）午後一時半より西本願寺高岡会館において、第三回寺院女性会連盟研修会が開催され、会員をはじめとする百五名が参加されました。今回は『結婚前の恵信尼さまと東国の恵信尼さま』をテーマに今井雅晴先生にわかりやすくお話をいただきました。

恵信尼さまは、京都の貴族として学問がどのように重要かを知っておられ、夫の社会での活動を積極的に評価しその意義を理解されていました。

また、家庭生活では、家庭運営に責任を持つておられ、法然上人の教えを親鸞聖人より先に受け、結婚後は家庭を大切に、置かれた環境に対応して自分を育て、夫の理想とともに育て、自分自身の理想（生き方）を意識され、念仏を抛りどころとして寄り添われたようであります。その生活環境に応じた生き方とは、前向きに、そして私たちに夫婦として寺院女性として人と会話することが大切であるとお話を結ばれました。

寺院女性会委員長 蟹谷郁子

## ★令和元年八月の前線に伴う大雨「災害義援金」

### 及び台風第十九号被害に対する義援金の現況報告

十一月末まで、各ご寺院にご依頼いたしました標記災害義援金につきましては、百五ヶ寺さまより、九十二万四千八十二円（振込手数料を除く）の義援金を頂戴いたしました。ありがとうございます。

本義援金は、災害対策委員会にて案分を決定し、佐賀教区及び台風十九号により被害のあった教区へそれぞれお届けする予定です

## ◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

### 「親鸞聖人を語る夕べ」報告

去る十一月二十五日(月)に「親鸞聖人を語る夕べ」が開催され、講師の吉井教潤さん(新湊組主幹 西照寺住職)より「親鸞聖人はどのような社会を願われたのか―私が救われるということ―」というテーマでご講演をいただきました。

お話の中で、当時の仏教はいわゆる鎮護国家の思想のもと、社会秩序を守ることが第一の使命とされ、また、貴族主義的な価値観や身分意識が入り込み、そのため社会的地位が高い者ほど善人とされ、逆に社会的地位の低い者ほど悪人とみなされるのが当時の仏教界の常識であり、親鸞聖人がおられた比叡山も同じ構造であったとされました。

貴族や僧侶など社会的地位が高い者だけが仏教の救いの対象であり、庶民は対象外とされていたこと、また、比叡山をはじめ、女人禁制・女性は成仏できないという明らかな性差別思想があり、「社会的地位や性別で優劣をつける、それが本当に仏教なのか?」という問いが法然上人・親鸞聖人の出発点であったとされました。

身分や性別にかかわらず誰もが救われていくという法然上人・親鸞聖人の教えは、それまでの社会秩序や身分の序列を守るという当時の仏教とは異質なものであり、その親鸞聖人の社会的態度があらわれているとして「いしかはらつぶてのごとくなるわれら」(唯信鈔文意)と、当時の社会において最下層とされ、偏見・差別・排除される側の視点に立って救いを求められたことを挙げられました。特に①非僧非俗②国王不拝③神祇不拝という親鸞聖人の生き方が意味するところは、権力に従うのではなく、あくまでも仏の教えに従っていくという、当時の社会システムや仏教界の構造から脱却・解放されていく生き方であり、体制側にとって非常に都合なものであったがために弾圧にあったのではないかと述べられました。

また、無明ゆえに我執にとらわれ、貧富・性別・民族・階級など様々な分別と線引きによって互いの存在を位置付けているが、本来は互いの関わり合いの中で支えられているのちであり、そのような視点に目覚め、それまでの自己中心的な生き方から解放されていくのが仏教における救いであったとされました。親鸞聖人も「煩惱具足のわれら」と言われているように、人間はどこまでも煩惱や我執、それがもたらす苦悩や悲嘆が消えることはないが、念仏とは仏の側からのメッセージであり、信心とはそのような我執に縛られていることへの目覚めであるとし、親鸞聖人は異質な教えを唱えていたのではなく、お釈迦様以来の正当な仏教の教えと救いを人々に説いていたとされました。

その上で、権力の側に立つのではなく、最下層とされた人々の視点に立った親鸞聖人の生き方やその言葉を通して、私たちがどのような社会を願うべきかが知らされていくのでは、とお話しいただきました。

かつて富山県で発行され、その内容が問題となり回収となった書籍『真宗王国』では、僧侶が座談会で部落問題に言及し「浄土真宗の教えが浸透しているこの富山県では部落差別は存在しない」「かつてはあったかもしれないが今では無くなった」「大昔に被差別部落の人々が蜂起して訴えを起そうとしたことがあったが、それを勧学が鎮めた」という趣旨の発言をしていたことが問題となりました。

結婚や就職など、あからさまな部落差別が横行している事実がありながら、これらの発言はどの立場に立った発言でしょうか。まさに親鸞聖人が脱却しようとした鎮護国家のための仏教の姿勢そのものではないでしょうか。この真宗王国問題で問われたのは、僧侶の差別問題に対する認識と教えの受け止めでした。

本来の意味で教えに生きる同朋教団をめざすため、私たちは今一度親鸞聖人の生き方から学ぶ必要があるのではないか、そのような感想を抱いた「親鸞聖人を語る夕べ」でした。

◇これからの日程（12/14～1/14）◇

12月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座	寺青実践運動研修会
16	教材委員会	
17	ヤスクニ委員会	子どものつどい打合 水波組聞法のつどい
18	僧侶研修会反省会	ビハーラ役員会 総代会常任委員会
19	財団評議員会・理事会	連区実践運動協議会（東海）
20		門推世話役会
21		ほとけの子どものつどい
23	護持口数調整委員会 組長会	
25		長寿苑ビハーラ活動
27	午後から事務休業 （～7日）	
<p><b>12月27日の午後より、1月7日まで、教務所事務休業いたします。</b></p>		
1月		
8	教務所事務開始	1月14日～16日まで、親鸞聖人御正忌報恩講のため教務所事務休業いたします。（常例法座はございます）
14	常例法座	

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。  
一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（170袋） **8,300円**

・1組（10袋） **500円**

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内  
（寺族青年会担当）

Tel. (050) 5587-7708(代表)

メール hourin18@gmail.com

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.  
◎毎週土曜日（本山制作） 午前6:15～6:25  
□第2・4日曜日（富山・高岡制作） 午前6:00～6:10

◎12/14（土）：山上 正尊氏

（本願寺派布教使・大阪府旭照寺住職）

「ちかい」

◎12/21（土）：山上 正尊氏

（本願寺派布教使・大阪府旭照寺住職）

「仏さまの生き方」

□12/22（日）：山岸 智史氏

（高岡教区五位組珉照寺）

◎12/28（土）：山上 正尊氏

（本願寺派布教使・大阪府旭照寺住職）

「日常でのご縁づくり」

◎1/4（土）：石上 智康総長

（浄土真宗本願寺派 総長）

「年頭のあいさつ」

◎1/11（土）：本持 信宗氏

（本願寺派布教使・静岡県長照寺副住職）

「仰せに頷く」

□1/12（日）：未 定

（富山教区）

【西本願寺高岡会館1月の常例法座】

ご講師：未 定

（ ）

ご講題：「未 定」

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。